

ご挨拶

北海道倶楽部は、1927年（昭和2年）に新渡戸稲造博士らにより設立されて以来の95年の歴史を有し、北海道に縁を持つ首都圏在住者が結束して、北海道の開発と発展を支援する会であります。

それらの活動の中で、関係者の北海道に対する意識も強まり、また人々の中の親睦も深まり、そして次世代を担う若い人々にこれらの活動が伝承されていくことが大切です。北海道は日本の中に組み込まれてからまだ200年弱の若い地域であり、その10倍ほどの長い歴史を持つ日本の他地域（北海道では内地と呼んだりします）とは異なる支援がまだ必要です。

現在の倶楽部の活動は、以下の6項目です。

- ①北海道の現状を日本国内に紹介する広報活動。これは当倶楽部の独自活動で広報誌「北海道NOW」の発行やウェブサイトにて行っている。北海道の歴史、現状やポテンシャルを先住民族のことも含め紹介しているものの、記載内容や倶楽部と各地域との絆強化法につき、深掘りが要る。
- ②北海道庁主催の地域活性化事業を支援。例えばふるさと納税への協力とか、北海道応援団会議との協働事業とか北海道新幹線札幌延伸への支援。
- ③国主催の北方領土返還活動において対策協議会へのマラソンや都内での大規模行進とかシンボルバッジ等々の協力。
- ④首都圏企業と大学、具体的には北海道大学等との共同研究の推進支援。農林水産業や観光業などの産業育成・都市構造研究・健康寿命伸張の為の医療改革など。
- ⑤首都圏での北海道に絆のある若い人々及び道内にて北海道改革に志を持つ人々に、北海道の歴史とポテンシャルにつき教育宣伝活動・講演会等を行うこと。これは活動としてこれまでは少なめだが、北海道倶楽部の設立当初の目的にも適った大切なテーマ。
- ⑥世界が一致して進めんとしている脱炭素の活動すなわちGX活動にも④の活動の中での北海道分担分をきちんと登録する。

以上が活動内容ですが、特に今後のテーマとして重要である⑤には注力して、北海道倶楽部の存在意義を高めたいと考えています。皆さん、相互協力しながら、倶楽部の活動を次世代へと繋いで参りましょう。

倶楽部の存在意義を高めよう



公益社団法人北海道倶楽部
会長

川村 隆

一言メッセージ

平成13年から長く会長を務めてこられた松田氏より職を受け継ぐことになりました。倶楽部の歴史の重みを感じながらも、新たな改革の必要性も感じます。

長い間倶楽部を支えてきた会員に新会員を加えた皆様のご協力により一層発展させ、倶楽部の役割を深め、公益事業を推進させましょう。

イベント等で皆様にお会いできるのも楽しみにしています。

1962年東京大学工学部卒、日立製作所入社。日立マクセルなどグループ会社
のトップを歴任し、2009年日立製作所代表取締役会長兼取締役社長兼取締役
に就任。10年から代表取締役会長兼取締役、11年取締役会長。14年に相談役とな
るまで同社をV字回復へと導く。17年6月に各界から強く推されて東京電力ホ
ルディングス会長就任。20年6月退任。現在は日立製作所名誉会長。
1939年生まれ、北海道出身。